

第 34 号

生活習慣病センターだより

～ 動脈硬化の検査 ～

2023 年 12 月発行

【頸動脈超音波検査ってどんな検査？】

首に機械をあてて映像化した血管の断面を見る検査です。

この検査は非侵襲的で、人体に悪影響を与えたり、痛みを感じることはありません。

上着のボタンを1～2個外し、ベッドに仰向けになり、首にゼリーを塗ります。部屋の明かりを消し、暗い部屋で検査を行います。約 30 分の検査です。

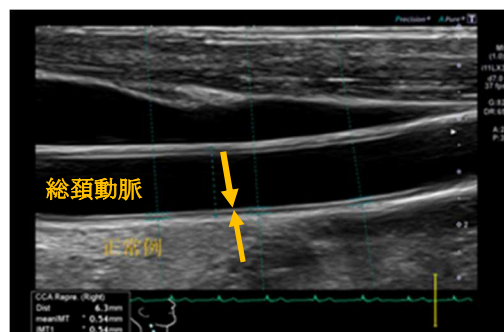


超音波診断装置→

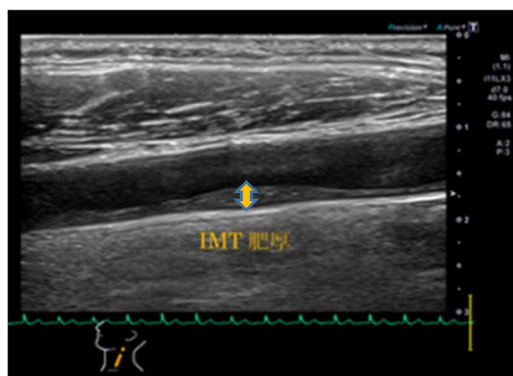
【検査でどんなことがわかるの？】

動脈硬化になると、本来しなやかな動脈が固くなり、壁が厚くなり、血管の内側がもろくなってコレステロールが血管にたまりこぶ状になったプラークができることがあります。動脈硬化が進行すると、プラーク自体がはがれて血液中をただよい、細い血管を詰まらせ、脳梗塞、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症を引き起こしてしまいます。動脈硬化の進行度を調べる方法として、動脈の壁の厚さ（内膜中膜複合体厚（IMT））を測ります。IMT（Intra Media Thickness）は頸動脈の内膜と中膜を合わせた厚みで、正常値は 1.0mm 以下です。

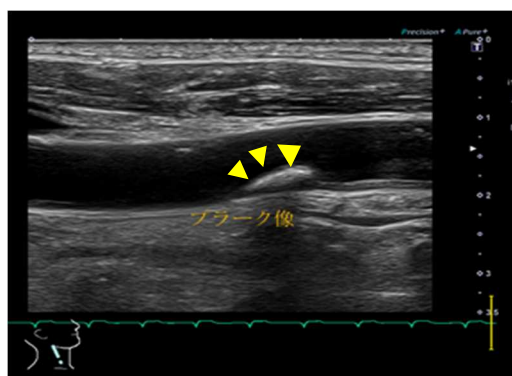
1.1mm を超えると脳血管障害と虚血性心疾患の発症率が高くなるとされています。IMT がさらに肥厚した物がプラークで、経過観察や治療が必要となります。



正常例（IMT < 1.0mm）



IMT 肥厚例（1.5 mm）



プラーク有症例（2.5mm）